

ヨコハマ市民まち普請事業

第1次提案書

注1) 3号様式はページを増やさず、必ず2ページ以内でまとめてください。

注2) 3号様式は市民に公開しますので、個人が特定できる情報は記入しないでください。

注3) 添付資料は位置図、現況写真、活用イメージ図、その他資料、各A4版1ページ、余白15mm以上としてください。

提案グループ名 (25字以内)	地域コミュニティ居場所づくり実行委員会
現在の主な活動 内容・活動実績	<p>【実績】2018年から都筑区役所の女性応援プロジェクト事業を「*1モヤ→キラ委員会」として受託。2020年度、連続講座25名、女性フェス講演会85人参加。独自オンライン講座は、全29回 のべ320人参加。</p> <p>【活動内容】区役所事業の受託。オンライン『今さら聞けないSNS』座談会。起業に向けた有料イベント等開催。地域では、畑に関わる居場所づくりプロジェクト、カフェ居場所づくりプロジェクト。女性が“わたしらしく”生きて、一歩ふみ出すことを応援しています。</p> <p style="text-align: right;">[*1 2021年3月一般社団法人モヤキラとして法人化]</p>
提案場所	都筑区 高山
提案名 (25字以内)	都筑ふれあいの丘「モヤ→キラ」コミュニティカフェ
提案する施設（どのような施設の提案ですか）	<p>【大型マンションで活用されていない共有部の有効利用】</p> <p>① CAFÉ（地域の人が気軽に集える場。フローリング、子どもが靴を脱いで遊べる小上がり、授乳コーナー等）</p> <p>② 展示・ステージ（地域の人の作品展示、発表、絵本読み聞かせ）</p> <p>③ 自由スペース（利用者の目的に合わせて自由に使える場）</p> <p style="text-align: right;">整備費用の概算額：約 500万円</p>
活用イメージ（提案する施設でどのようなことを行いますか）	<p>【多世代交流、自立支援を目的として活用できるカフェ】</p> <p>① 喫茶・飲食（地産地消の素材を使った弁当、環境や健康に配慮した食品）</p> <p>② マルシェ（地元で採れた野菜、花、雑貨）</p> <p>③ 住民同士が交流できる場（工作・折り紙、座談会）</p> <p>④ 地域の人々の発表の場（絵画・ハンドメイドなど作品展示）</p> <p>⑤ 教室 ワークショップの開催（趣味やスキルアップ、生活時間別の利用）</p> <p>⑥ 個人利用の作業スペース（学生の勉強、大人が作業）</p> <p>⑦ レンタルスペースの提供（防音個室）</p> <p>⑧ こども110番のいえ（見守り）</p> <p>このように、各世代がより使いやすい環境を用意し、核家族を超えて交流する。</p>
提案の背景（なぜ提案をするのか、地域のニーズや課題、生かしたい地域の魅力等に触れて説明してください）	<p>【魅力あるスペースで支え合い、一歩ふみ出せる場づくり】</p> <p>① 竣工当初はマンション内の共有部にマルシェやカフェがあって、住民同士のコミュニケーションの機会があったが、うまく活用されず無くなってしまった。以前より、さらに活気あふれる環境を整備したい。</p> <p>② 都筑区の地域福祉保健計画の課題にある通り、高齢者が多くなっているなど、今後、支援の必要な人は増えていくと考えられる。</p> <p>③ 核家族化が進み、地域の交流が希薄になっている。共有部の使用方法について、ボール遊びの音や、植栽・器物の破損に対する苦情、世代間の理解不足でトラブルが多発している。</p> <p>④ 5年間の女性応援プロジェクトの活動から得た女性たちの背景 ・「私は、何をすればいいのかわからない」という人も多数。</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・女性が自立するための活動に使える場がない。私たちも、それをサポートできる拠点が無い。 ・独身、夫婦のみ、個人事業主などは、地域の中での人間関係が作りにくく孤立しやすいので、つながりを必要としている。
目指す地域の将来像（提案を実現することで、どのような地域にしたいと考えますか）	<p>【一人でも、誰でもふらっと寄れる居場所のある地域】</p> <p>「あそこに行ったら、誰かに会える」と思うだけでも元気になれる居場所があることで、孤立や孤独の気持から救われる地域を目指す。</p> <p>いつでも受け入れてもらえる安全安心な場所で、信頼できる人と情報交換ができて、自分らしく自己肯定感を上げて生きられる。</p> <p>地域の子育て、高齢者の健康確認、また防犯面でも安全なまちづくりができ、誰が来ても温かく迎える街になることで住みたい街として魅力が上がる。</p> <p>大人は交流のない子どもと知り合いになることで寛容になる。子どもは第三の大人に見守られることで優しくなり、人も物も大切に作る心が育つ。若い夫婦にとっては、子育てを見守ってくれる街となる。そして、私たちが住みたい街となっていく。</p> <p>潤滑な世代交代を見込めて地域の価値も上がっていく。</p>
整備時の協働（つくるときに連携する仲間や活用する地域資源注4）に触れて説明してください）	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の会社に施工をお願いして、事業費削減のアドバイスやご協力を相談できる。 ・リノベーションの好きな仲間と共に、自分たちのやれる作業はできる。 ・看板、壁面アートなどのデザインは協力者あり。 ・施設の花壇を整備している方も協働して、地域の人と共に、「自分たちの居場所」として感じられる関係性を築いていきたい。
運営時の協働（運営するときに連携する仲間や活用する地域資源注4）に触れて説明してください）	<ul style="list-style-type: none"> ・過去5年間の女性応援プロジェクトでつながった人たちと、コラボ商品の開発や、弁当の委託販売、ワークショップの運営などできる人がいる。モヤキラのメンバーには、保育経験者や子育て経験者、セラピストがいるため、カフェに来る方も安心して話ができる。 ・カフェでは地域に住む女性たちの貢献したい想いと雇用が合致。 ・物販経験のあるメンバーとデザイナーによるオリジナル商品開発。コミュニティカフェでもオンラインでも販売可能。 ・現在の活動で畑に関わるつながりがあり、野菜マルシェで協力してもらえる。 ・ふれあいの丘地区社会福祉協議会『みんなの手で地域を盛り上げよう委員会』のプロジェクトメンバーとして参加し近隣6つの自治会とのつながりを構築予定。
その他提案について特にPRしたい点を記入してください。	<ul style="list-style-type: none"> ・モヤキラが企画運営してきた経験をもとに、高齢者が今まで培ってきた知識や経験をインタビュー形式やワークショップで引き出す企画を運営できる。 ・オンラインで継続開催してきた「今さら聞けないSNS講座」を、カフェでも開催できる。 ・管理組合からスペースの管理委託を請けて、運営を行うスキームを想定している。大型マンションの施設管理の成功例になるような事業を展開し、施設を持て余す大型マンションの管理へ新たなモデルとなる。モヤキラが横展開も可能。

注4) 「地域資源」とは、次のようなものを想定しています。

- 「ヒト」の例 ・地域のPTAから協力を受けられそう。 ・地域に設計の専門家がいる。
- 「モノ」の例 ・整備に必要な材料を安く入手できそう。 ・整備に必要な建設機械を安く借りられそう。
- 「カネ」の例 ・自治会町内会から資金的な支援を受けられそう。 ・バザーなどで資金を集められそう。

整備場所の地権者等注5)への提案内容及びコンテストに応募することについての説明状況	
説明の相手方	相手方の意見等
① タンタタウン自治会長	① 地域との繋がりづくりに協力可能。 ② 住民からの要望があがれば、検討の可能性もあるが、まだ考察の段階ではない。 ③ コミュニティスペースの利用規約上、住民以外は利用できないという課題がある。
② マンション管理組合 理事長	
③ 管理事務室	

注5) 土地・建物を所有している、借りている、又は実質的に使用権利を持つ者（会社や行政機関も含む）

記載内容について、次の内容を確認後チェックボックスに✓を入れてください。

- 記載内容は真実であり、虚偽はありません。
- 記載内容に個人情報含まれていません。

位置図



公共交通機関で
 横浜市営地下鉄「都筑ふれあいの丘駅」徒歩4分
 バス停「二の丸」から 徒歩2分



車で
 東名高速 横浜青葉ICから 約12分
 第三京浜 都筑IC/都筑ICから 約15分
 近隣に有料駐車場あり



現況写真



エントランス



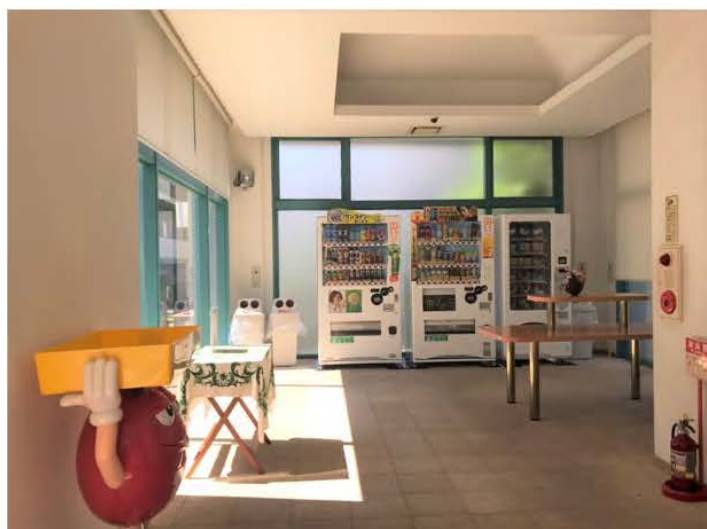
カウンター



CAFE



トイレ

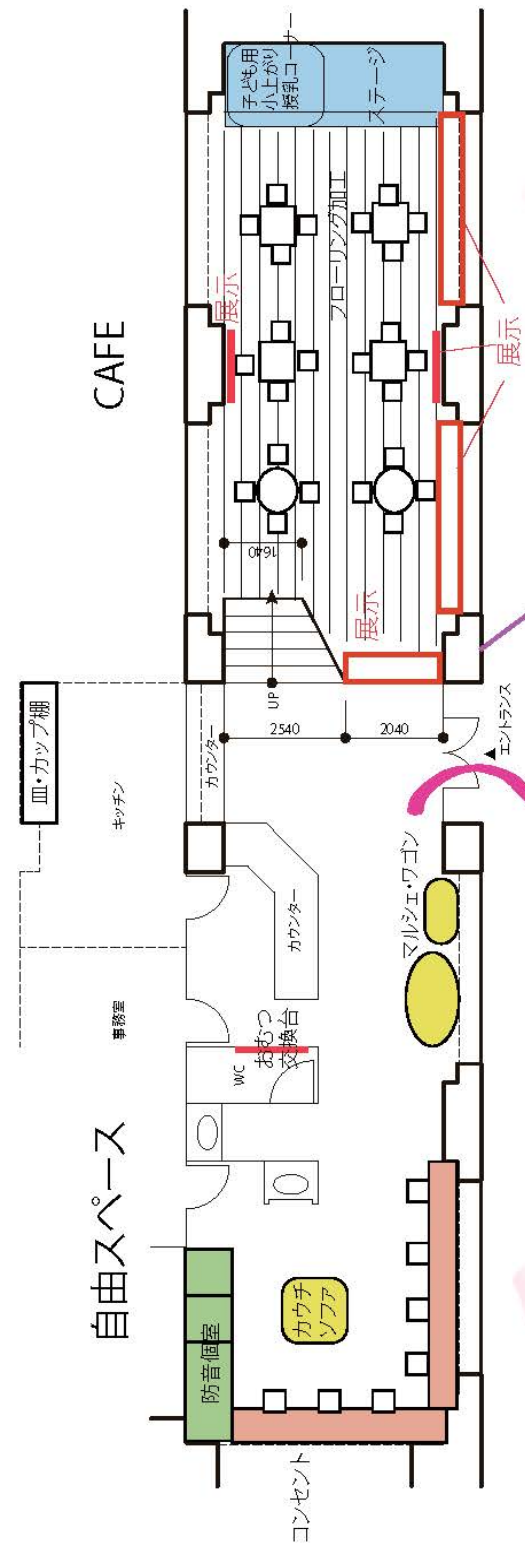


自由スペース



外観

活用イメージ図



その他資料

モヤキラの活動について

「わたしらしく」生きる、を応援する! 「モヤ→キラ委員会」として
横浜市都筑区役所主催の「輝く女性応援プロジェクト」事業の委託を受け
講座や女性フェスの企画運営を担当してきました。

輝く女性応援プロジェクトとは?

2015年4月より、都筑区では「女性が住みやすく、活躍できるまち」をめざし
『輝く女性応援プロジェクト』として女性を支援するための講座をスタートしました。

◆2016年 都筑区初の女性フェス スタート

『WOMEN'S MEET UP FES in 都筑』 広報よこはま掲載



◆2018年 地域団体「モヤ→キラ委員会」発足

2018年3月、講座に参加していた女性たちを中心に『モヤ→キラ委員会』を発足。
『輝く女性応援プロジェクト』を引き継ぎ、毎年、連続講座や講演会などを開催しています。

◆2020年度 コロナ禍でもオンラインのイベント開催

「今さら聞けない SNS」「今度こそ習慣化」など、全29回 オンライン開催、参加者のべ320名。
各種 SNS を使って WEB 集客を実施。



◆パネル展では18団体を紹介

これまでの活動でつながった、
都筑区近隣 18の企業、団体にご参加いただいた。



◆林市長とぬくもりトーク (令和元年第一回)

都筑区役所にて女性の活躍支援をテーマに
話し合いました。

◆2021年3月3日 一般社団法人モヤキラを設立 地域とのつながりを推進する 「モヤ→キラプロジェクト」スタート

◆ふれあいの丘地区社会福祉協議会の新プロジェクト

「みんなの手で地域を盛り上げよう」委員会のプロジェクトメンバーとして企画運営に参加
都筑ふれあいの丘地区の6つの自治会と共に2021年7月から活動開始。